

乳牛

第156号
2023年 春号

家畜衛生情報



令和4年度長崎県乳牛改良同志会 B&Wショウ
ジュニアグランドチャンピオン 第2部 菅駿介さん出品牛

県南家畜保健衛生所 (長崎県島原振興局農林水産部 衛生課、防疫課)

〒859-1415 長崎県島原市有明町大三東戊908-1
TEL:(0957)68-1177 (休日、夜間も転送電話対応)
FAX:(0957)68-2056
Eメール:s11340@pref.nagasaki.lg.jp

県南家畜保健衛生所 長崎県

検索

【QRコード】



今シーズンの高病原性鳥インフルエンザの発生状況

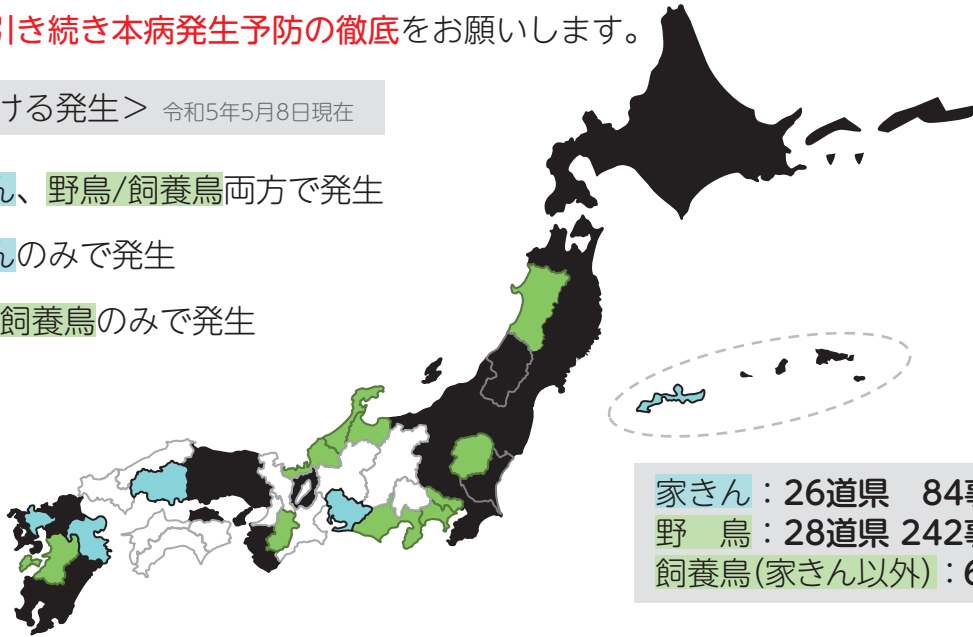
今シーズン、高病原性鳥インフルエンザは家きん、野鳥ともに全国的に発生がみられ、特に家きんでは5月8日現在、過去最多となる**26道県**で**84事例**が発生しました。

内訳は下段の表のとおりで、採卵鶏は62事例発生し、国内飼養羽数の約9%となる1,656万羽が、肉用鶏は11事例発生し、国内飼養羽数の約0.7%となる96万羽が、殺処分されています。また、今シーズンはこれまで発生がなかった山形県、福島県、群馬県、鳥取県、**長崎県**、沖縄県でも発生がありました。

5月下旬までは本病の流行シーズンと考えられており、**4月に入っても北海道で2例の発生**が認められています。また**カラス**等留鳥における感染も認められています。関係の皆様におかれましては、**引き続き本病発生予防の徹底**をお願いします。

<国内における発生> 令和5年5月8日現在

- 家きん、野鳥/飼養鳥両方で発生
- 家きんのみで発生
- 野鳥/飼養鳥のみで発生



家きん：26道県 84事例
 野鳥：28道県 242事例
 飼養鳥(家きん以外)：6都県10事例

<今シーズンの発生内訳(家きん)> 令和5年5月8日現在

…過去、発生がなかった県

発生県	採卵鶏・育成鶏		
	発生例数	殺処分数(羽)	最終発生月
北海道	3	1,258,000	R5年4月
青森県	2	1,700,000	R5年3月
岩手県	1	84,000	R5年3月
山形県	1	67,000	R4年12月
福島県	1	100,000	R4年12月
茨城県	5	4,340,000	R5年2月
群馬県	3	518,000	R5年1月
埼玉県	2	324,000	R4年12月
千葉県	4	640,000	R5年1月
新潟県	4	2,415,000	R5年3月
愛知県	1	310,000	R4年12月
滋賀県	1	4,040	R5年1月
兵庫県	1	44,000	R4年11月
和歌山県	1	46,000	R4年11月
鳥取県	1	110,000	R4年12月
岡山県	3	714,000	R4年11月
広島県	6	1,687,000	R5年1月
香川県	3	154,000	R4年12月
福岡県	2	297,000	R5年3月
佐賀県	1	30,000	R4年12月
長崎県	1	27,000	R4年12月
宮崎県	2	260,000	R5年1月
鹿児島県	12	1,390,000	R4年12月
沖縄県	1	45,000	R4年12月
合計	62	16,564,040	

発生県	肉用鶏		
	発生例数	殺処分数(羽)	最終発生月
北海道	2	320,000	R4年11月
青森県	1	130,000	R4年11月
宮城県	1	21,000	R4年11月
福島県	1	17,000	R4年11月
新潟県	1	156,000	R4年11月
香川県	1	33,000	R4年11月
福岡県	1	36,000	R4年12月
大分県	1	56,000	R5年1月
宮崎県	1	150,000	R4年12月
鹿児島県	1	37,000	R4年12月
合計	11	956,000	

発生県	その他		
	発生例数	殺処分数(羽)	最終発生月
宮城県	1	12,000	R5年1月
茨城県	1	4,800	R5年2月
埼玉県	2	138,000	R5年2月
千葉県	2	5,020	R5年2月
愛知県	1	1,000	R4年12月
滋賀県	1	6	R5年1月
和歌山県	1	60	R4年11月
岡山県	1	23,000	R4年12月
福岡県	1	400	R5年1月
合計	11	1184,286	



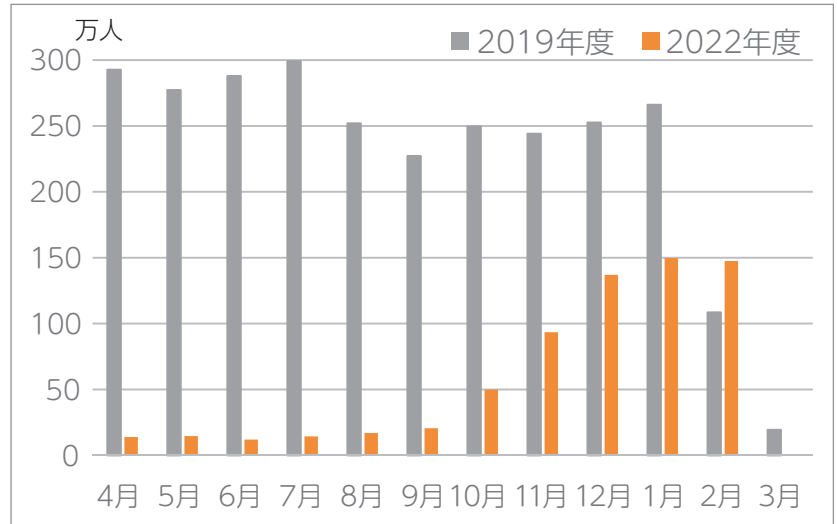
最新の発生状況、疫学調査結果は、農林水産省のサイトを参照ください。
 『令和4年度鳥インフルエンザに関する情報について』

海外からのアフリカ豚熱の侵入リスクが高まっています

海外からの入国制限が解除され、外国人旅行者数も回復しつつあります。これに伴い、海外からのアフリカ豚熱の侵入リスクも高まっています。

グラフは2022年度に入国した外国人旅行者数の推移です。新型コロナウイルスが発生する前（2019年度）と比較すると、上半期は5%程度ですが、1月、2月には50%程度まで増加しています。また、これに伴い肉製品など輸入が規制される携行品の摘発も増加しています。ゴールデンウィークで海外旅行に行った人の帰国などもあり、今後も人やモノの出入りは大幅に増加することが予想されます。

アフリカ豚熱は世界中の多くの国々で発生しており、特に訪日客が多いアジアはほとんどの国で発生が確認されています。発生を防止するために、生産現場におけるより一層の警戒が必要です。作業服・靴の交換や車両の消毒、野生動物の侵入防止など、どれも基本的な対策ですが、今一度、適切な予防対策が取られているか確認していただき、海外からの人やモノの流入に備えましょう。



訪日外国人旅行者数の推移 (出典：日本政府観光局)

暑熱対策は早めに取り組みましょう

夏の暑さは家畜にとっても大きなストレスとなり、生産性や発育に大きな影響を与えます。暑くなってからでは間に合わないこともありますので、計画的に準備をはじめ、家畜が健康で快適に過ごせる環境づくりを整えておく必要があります。

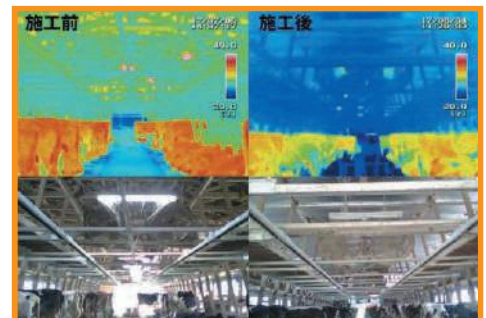
畜舎環境面について

- 暑熱ストレスを**見える化**する。
ヒートストレスメーター等（温度計、湿度計）を使用してストレス具合を**見える化**していきましょう。
- 畜舎の**換気・通風**に**注意**する。
窓・戸の開放や整理整頓をして風の通り道を作りましょう。
- 送風機具や散水機を使用し、**体感温度の低下**に努める。
- 屋根への石灰乳の吹き付けや散水・放水により、畜舎内温度を下げる。



市販のヒートストレスメーター

1月に開催された長崎県酪農収益力向上研修会でSDN-Wという遮断熱シートが紹介されました。屋根裏に設置する事で屋根からの輻射熱を遮断して、畜舎内の気温上昇を緩和してくれます。厚さ1cm以下で軽く、タッカーや釘を使ってご自身での設置が可能です。



SDN - W設置による畜舎内温度の違い
左：設置前 右：設置後

その他にも**良質の飼料**、**主要なミネラル**を与える、**新鮮な水**を常に十分量飲めるようにするなどの飼養管理面の対策も重要です。

動物用医薬品は正しく使いましょう

出荷した乳・肉・卵・蜂蜜に動物用医薬品が基準値を超えて残留した場合、**回収又は廃棄の対象**となります。昨年度、出荷時に抗菌性物質が残留していた事例は管内だけで**5例**と急増しており、消費者からの信頼を失墜させないためにも、関係者が一丸となって対策に取り組む必要があります。

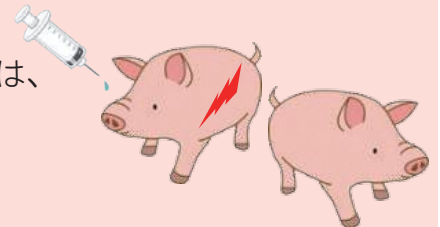
動物用医薬品を使用する時は下記のことに注意してください

- 獣医師の方は指示書発行の際に使用基準に適合しているか確認をお願いします。使用基準に適合しない使い方を使用する場合には別途出荷制限期間指示書の発行をお願いします。
- 生産者の方は獣医師の発行した指示書に従って薬を使用してください。
- 休薬期間を間違えないように以下①～⑥について使用記録を付けて保管してください。

- | | |
|--------------|---------|
| ① 使用年月日 | ④ 薬品名 |
| ② 使用場所 | ⑤ 用法・用量 |
| ③ 対象動物および頭羽数 | ⑥ 出荷可能日 |

薬を投与した個体が把握できるようにしておきましょう。

- 獣医師の発行した動物用医薬品指示書や出荷制限期間指示書は、使用記録と一緒に保管してください。
- 出荷前に病歴、投与歴があれば出荷時に申告してください。



病性鑑定事例

腸球菌「エンテロコッカス・セコラム」によるブロイラーの化膿性脊椎炎

令和4年秋、管内で「エンテロコッカス・セコラム」によりブロイラーが神経症状を呈した事例が発生しました。

<経過>

14日齢で横倒れし遊泳運動様に脚を動かす鶏が鶏舎内に増加し、病性鑑定を行いました。さらに、31日齢で再度、検査を行ったところ、全ての剖検個体に第6胸椎椎体の膨隆があり、膨隆内部には脊髄圧迫がありました。膨隆部の脊髄からは、エンテロコッカス・セコラムが分離され、病理組織検査で本種による化膿性脊椎炎と診断されました。



第6胸椎椎体の膨隆

<考察>

エンテロコッカス・セコラムは、鶏の腸内に常在する細菌ですが、遺伝子変異により病原性を得ると考えられています。本病は海外で問題になっており、近年国内でも発生しています。また、跛行、脚麻痺等発症後の抗生物質投与は効果が乏しいとされる一方、3週齢までの抗生物質投与は、予防のために有効と報告されています。また、空舎の消毒は本病予防のためにも重要です。

本疾病はまだ国内で報告の少ない病気であり、被害状況や対策法について不明な部分が多くあります。死亡の増加がなくても、跛行や脚麻痺、遊泳運動のような症状が顕著に増加した場合、当所までご連絡ください。



椎体の膨隆による脊髄圧迫

牛サルモネラ症に注意 ～衛生対策を徹底しましょう～

サルモネラは牛に下痢、血便、乳量低下などの症状を引き起こす上、**人の食中毒原因菌**になります。牛では4種の血清型が届出伝染病に指定されています。

昨年度、管内では**発熱、血便、乳量低下**を呈した牛群から**届出伝染病に指定されていない血清型による牛サルモネラ症**が2例発生しました。本症の発生は農場に大きな経済的損失をもたらすと共に、**終息までに数か月要するため**、精神的負担も伴います。糞便等で汚染された敷料や飼料、飲用水を介した経口感染が主ですが、子宮、結膜、呼吸器などからも侵入します。対策として、**人、車両、ネズミや野鳥**による農場内への病原体持ち込みの防止、**環境ストレスの低減**が挙げられます。サルモネラが分離された場合は、抗生物質による治療、畜舎の洗浄と消毒の徹底など、衛生対策による清浄化が重要です。

長崎県乳牛改良同志会主催 ブラックアンドホワイトショウ

長崎県乳牛改良同志会の主催によるブラックアンドホワイトショウが、3月29日に県南家畜市場で3年ぶりに開催されました。グランドチャンピオンに輝いたのは諫早農業高校の出品牛でした。ジュニアグランドチャンピオンには島原市の菅駿介さんの出品牛が、ベストアダーには雲仙市の株



グランドチャンピオン
第5部 諫早農業高校出品牛



ジュニアグランドチャンピオン
第2部 菅駿介さん出品牛

株式会社S.T.M.HOLSTEINと諫早農業高校の出品牛の2頭が選ばれました。令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響で様々なイベントが中止となっていました。今後はコロナ禍前のように開催されることを願っております。受賞者の皆様本当におめでとうございます。

令和4年繁殖集計について

令和4年1月～12月に黒毛和種繁殖牛に人工授精された凍結精液は、合計8,905本（前年は9,173本）でした。そのうち、県有種雄牛の利用率は80.6%と前年度を上回りました。上位5頭はいずれも県有種雄牛であり、幸男や真乃介といった次世代の種雄牛の利用が増加しました。

1. 県有牛の利用本数および利用率

内訳	利用本数 (本)	利用率 (%)
県有牛	7,178	80.6
その他	1,727	19.4
合計	8,905	

2. 利用本数上位5種雄牛（県有）

順位	種雄牛	利用本数 (本)	利用率 (%)
1 △	金太郎3	1,760	19.8
2 ▼	勝乃幸	1,541	17.3
3 新	幸男	981	11.0
4 新	真乃介	752	8.4
5 ▼	百合幸	649	7.3

4月からの新体制図です。よろしくお願いします。

衛生課



宮本 全
(課長)

指導班

転入



後田 徹志
(係長)

転入



早稲田 奈奈
(係長)



萩原 茜
(獣医師)

庶務



吉岡 ゆかり
(会任職員)



松森 洋一
(所長)

防疫課



藤井 猪一郎
(課長)

肉牛酪農班



豊田 勇夫
(専門幹)



早島 彬美
(主任技師)



中村 有希
(獣医師)

嘱託



田中 英隆
(獣医師)

養豚養鶏班



井上 大輔
(専門幹)

転入



馬場 壮太郎
(主任技師)



中山 航
(主任技師)

(一社)長崎県畜産協会



森 宏子

●転入者挨拶

後田 徹志

中央家畜保健衛生所から転入してまいりました。県南家畜保健衛生所勤務となりました。初めて見聞きする事などあり、戸惑うこともあります。勉強するつもりで一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。

早稲田 奈奈

普及員で初めての家畜保健衛生所勤務となりました。初めて見聞きする事などあり、戸惑うこともあります。勉強するつもりで一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。

馬場 壮太郎

長らく保健所や食肉検査所におりましたが、農林部門に初配属となりました。家畜防疫に貢献できるよう、日々勉強に励んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

●お世話になりました

・常岡 純也 → 対馬家畜保健衛生所

・高山 裕介 → 中央家畜保健衛生所